放射線データの概要　10月分（10月1日～10月31日）

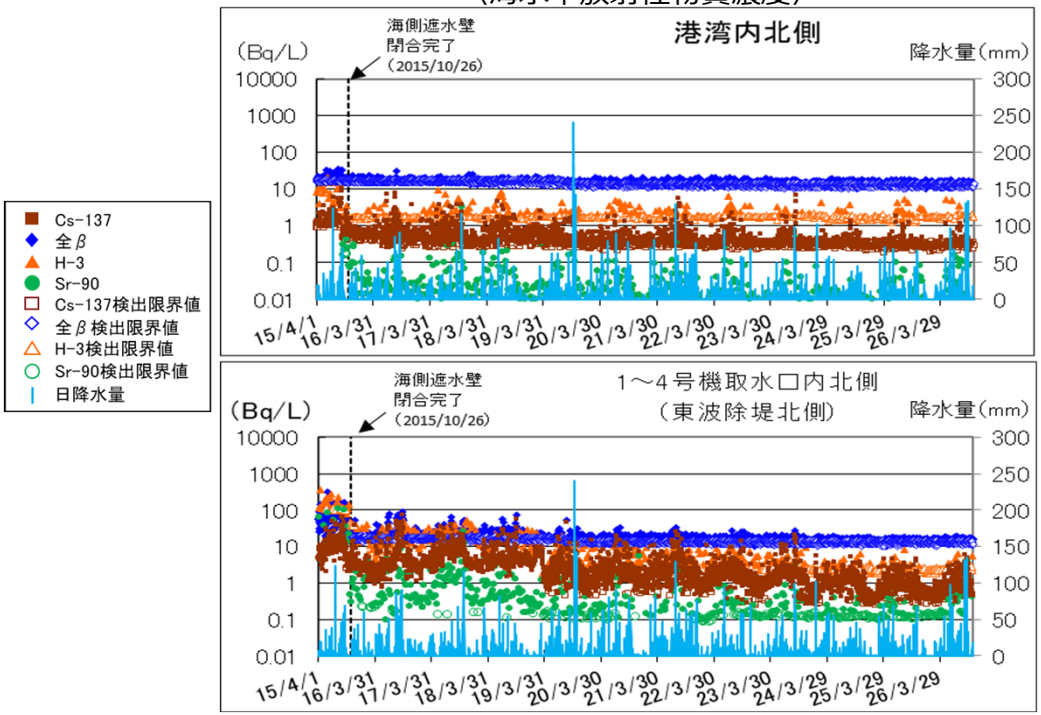
２０２６年１１月１２日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

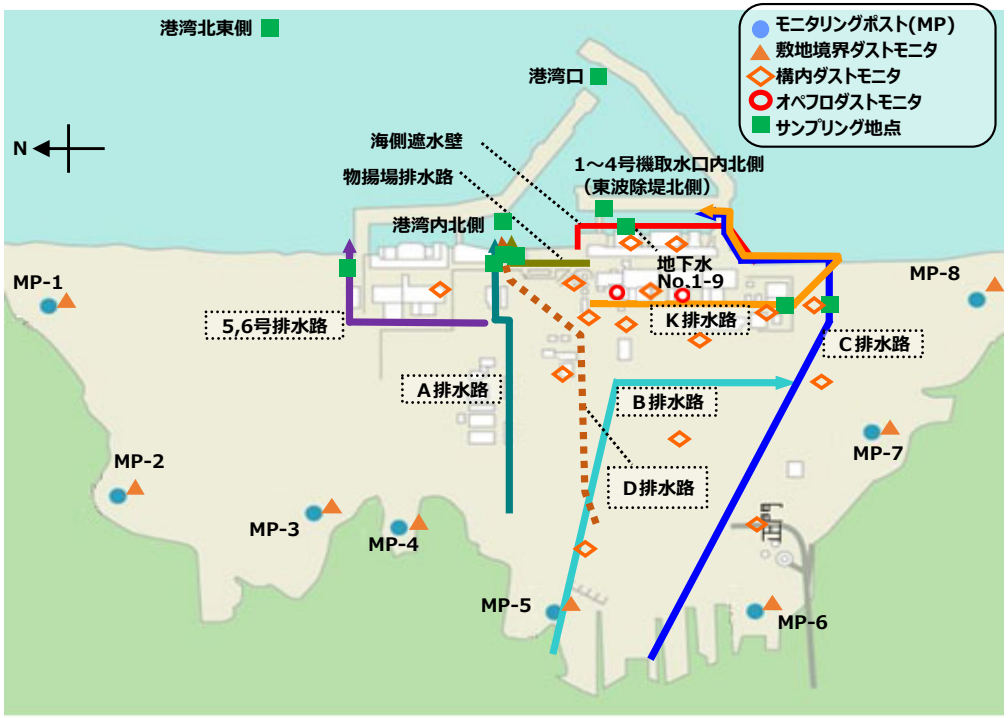
●2026年10月に公開したデータ数は約11,000件
（「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ公開）

●敷地内ダスト（粉じん）濃度は低い濃度で安定
これまで同様、構内ダストモニタ、敷地境界モニタリングポスト・ダストモニタの指示値に有意な変動はないこと、プラントパラメータに異常がないことを確認している。

●港湾内外の海水放射性物質濃度は低い濃度で安定
ALPS処理水の2026年度第6回（通算24回）の海洋放出について、2026年10月5日から10月23日まで実施。第7回（通算25回）の海洋放出について、10月26日より開始。
また、1-4号取水路開渠内堆積土砂対策工事について、10月29日より着手。
発電所周辺海域の海水中トリチウム濃度を継続して測定しており、当社の運用指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/リットル、調査レベル：350ベクレル/リットル いずれも発電所から3km以内）より十分低い値であることを確認している。

〈海水中放射性物質濃度〉

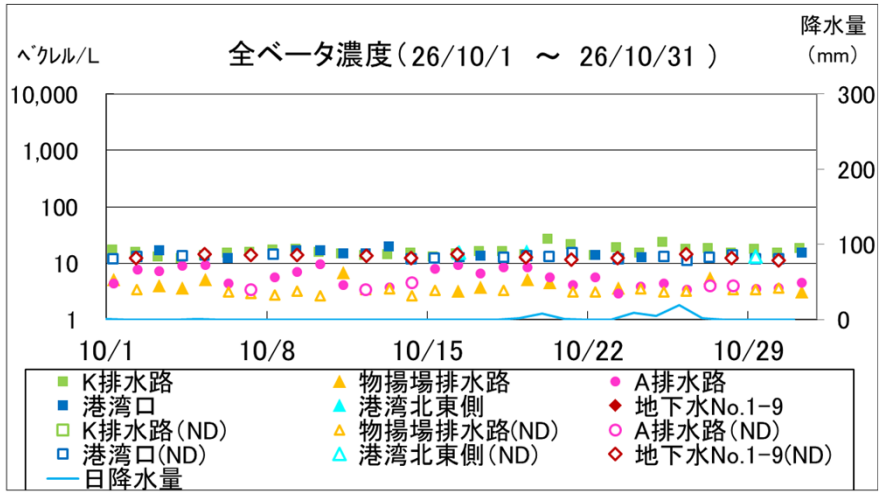


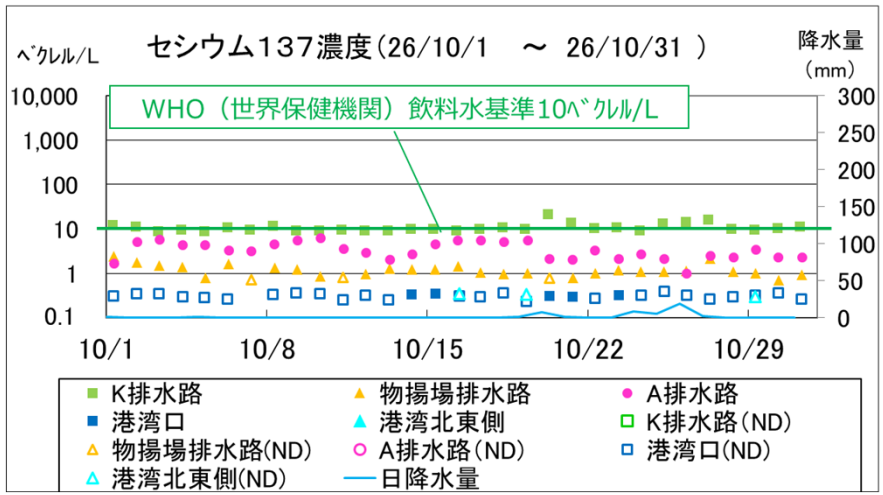


放射線データの概要　10月分詳細（10月1日～10月31日）

A 水（海水、排水路、地下水等）

- 降雨時には、排水路の全ベータ濃度、セシウム137濃度が一時的に上昇。
- セシウム137濃度は、K排水路を除き概ねWHO飲料水基準を下回った。

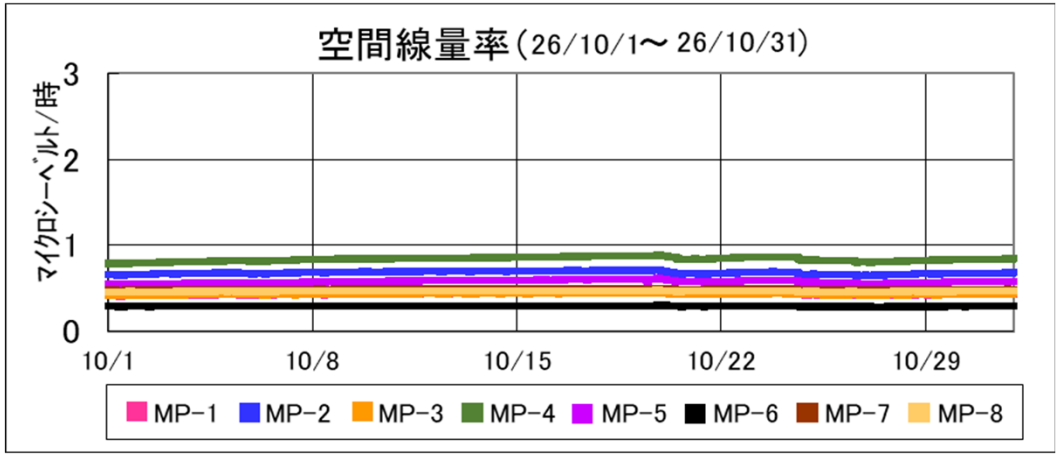




●全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
●海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
●（ND)は、不検出との意味で、グラフには検出限界値を記載。
●地下水№1-9については全ベータ濃度で監視。

B 空間線量率（測定場所の放射線の強さ）

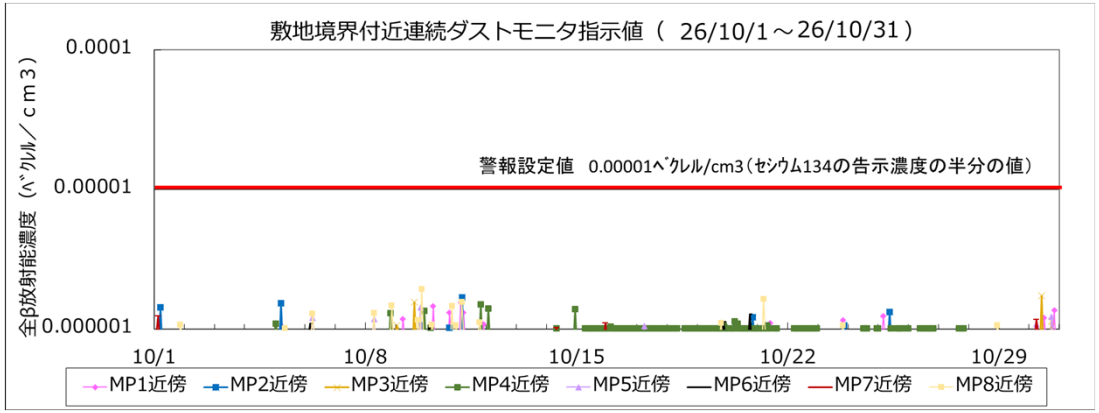
・低いレベルで安定。



敷地境界における１時間あたりの線量率を３マイクロシーベルトとすると、例えば１ヶ月間この場所で作業を行った場合（１日あたり８時間、20日間作業をしたと仮定）の被ばく線量は約0.5ミリシーベルトになります。

C 空気中の放射性物質

・大きな上昇はなく、低い濃度で安定。

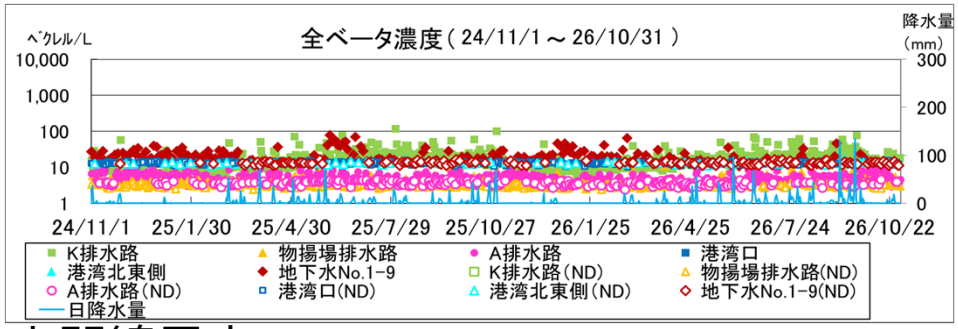


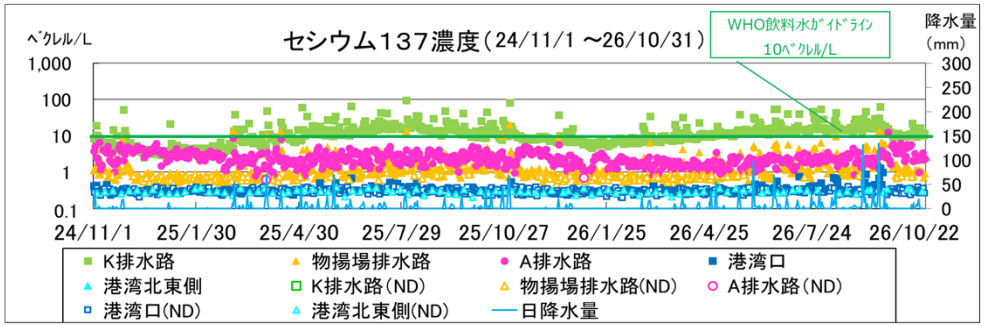
●告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準

放射線データの概要　過去の状況

A 水（海水、排水路、地下水等）

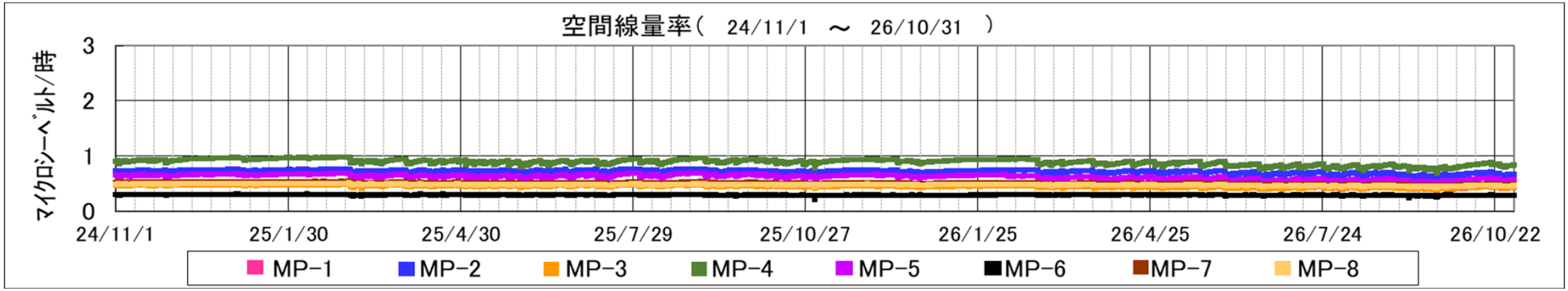
・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
・K排水路のセシウム137濃度は、降雨の多い春から秋にかけて上昇がみられ、冬季は低下。排水路の清掃や敷地全体の除染等の対策を実施中。





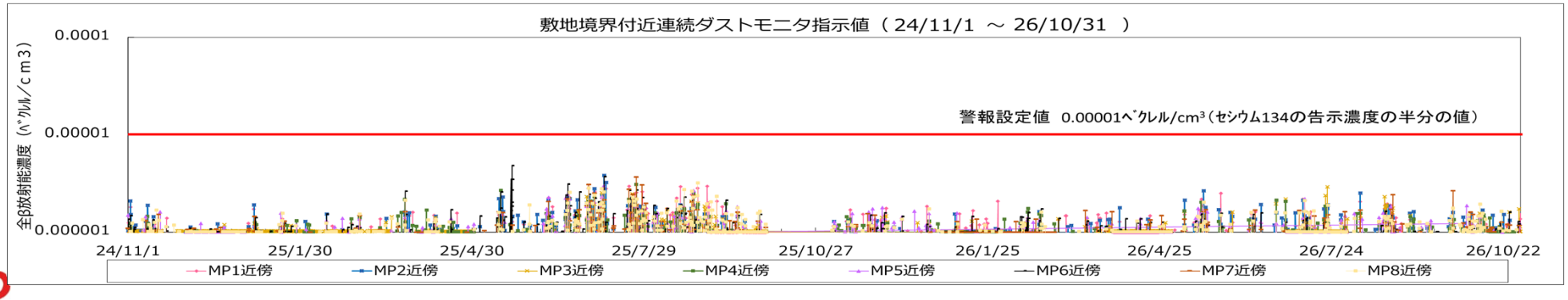
B 空間線量率

・全てのモニタリングポストにおいて、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

・ダストの濃度は、大きな上昇はなく、低い濃度で安定。

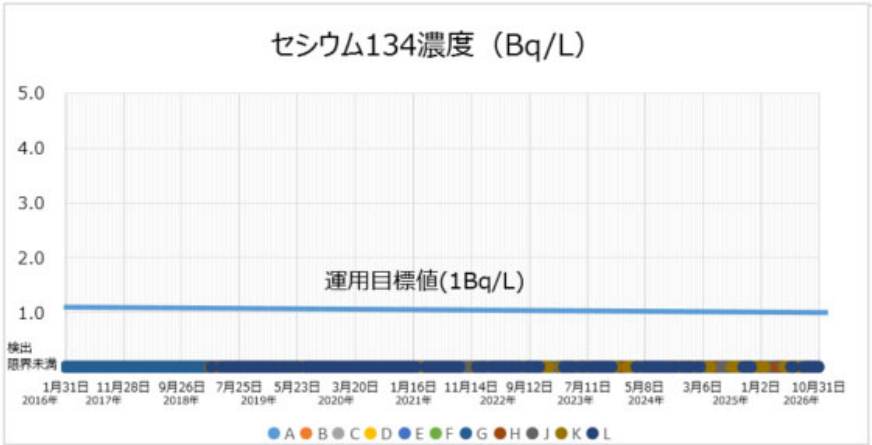


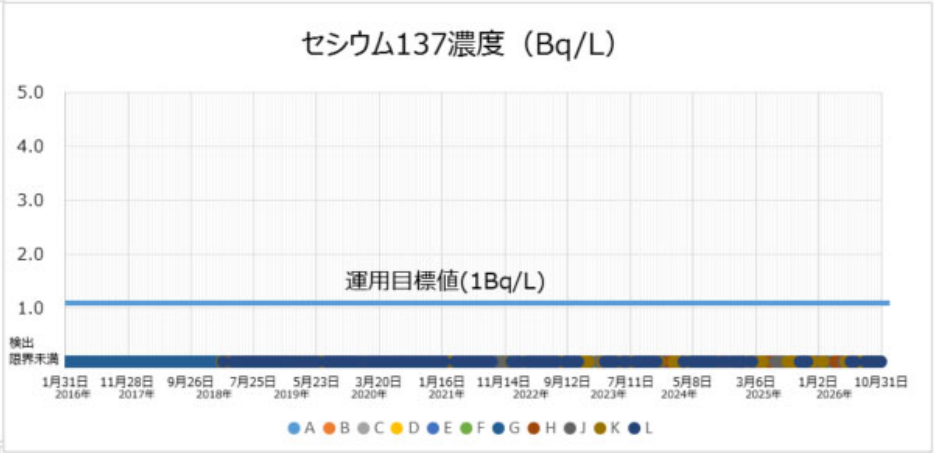
サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

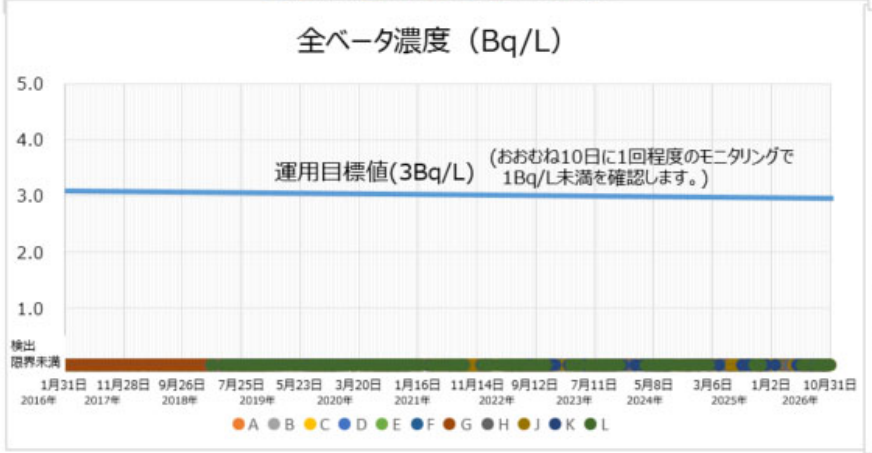
分析結果・排水の実績

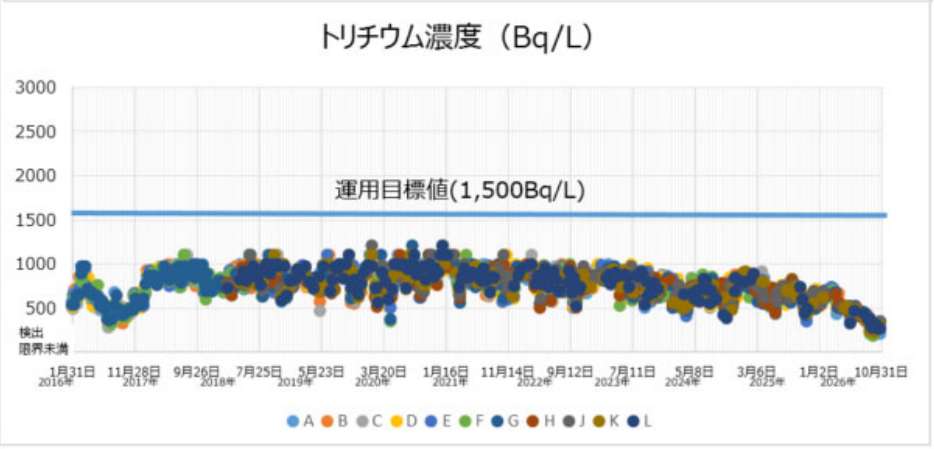
- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認した上で、2015年9月14日から2026年10月31日までに合計3,079回、2,156,481 m^3を排水。
- 引き続き、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）









サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、https://www.tepco.co.jp/decommission/data/analysis/index-j.htmlをご覧ください。